

北方建築総合研究所 NEWS LETTER

北方かわらばん

Mail Magazine VOL. 24 2011/08/08

「北方かわらばん」は、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 建築研究本部 北方建築総合研究所（旧・北海道立北方建築総合研究所）が発行しているメールマガジンです。

ホームページ等で配信登録された方にお送りしています。

アドレスを登録した覚えのない方、登録内容の変更、配信停止は【管理者からのお知らせ】をご覧ください。このメールアドレスは配信専用のため、返信できませんのでご了承ください。

※MSゴシックなどの等幅フォントでご覧ください。

=====
今月号のトピックス
=====

第24号の内容はこちらです。

■イベントのお知らせ

□「北洋銀行ものづくりテクノフェア2011」が開催されます

■「木造住宅の耐震診断と補強方法」の改訂原案

■研究紹介 「市町村の建築物保全計画作成のための保全項目の優先度評価手法に関する研究」（H22～H23 経常研究）

■最近の研究所の動き

- 「来て☆見て☆はっけん!ほくそうけん、公開デー」を開催しました
- オーストリア大使館の商務参事官が来所されました
- 論文発表と学会発表
- 7月の業務報告

■北総研からのお知らせ

□構造計算適合性判定センターから

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
イベントのお知らせ
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

■【「北洋銀行ものづくりテクノフェア2011」が開催されます】

北海道のものづくり産業の振興”をより一層促進するため、北洋銀行の主催で「北洋銀行ものづくりテクノフェア2011」が次の通り開催されます。道内外から優れた技術・製品を有する中小企業や大学・高専、研究機関、支援機関が参加するもので、道総研も参加します。

日時 平成23年8月19日（金）10：00～17：00
会場 札幌コンベンションセンター 大ホール（白石区東札幌6条1丁目）

販路拡大支援、企業間連携等を促進するとともに、道内における食品産業と、食品加工機械のマッチング、および、環境・エネルギー改善技術の導入促進をテーマとして加え、北海道における新たな産業展開をサポートいたします。

さらに、今回新たな試みとして（財）北海道中小企業総合支援センターおよび（社）北海道機械工業会が主催する「ほっかいどう受発注拡大商談会」が同日開催されます。

新たなお取引先や事業パートナーをお探しの皆さま、技術連携や共同開発に興味をお持ちの皆さま、ものづくり企業に興味をお持ちの皆さまのご来場をお待ち申し上げます。

このフェアのお問い合わせ先は次の通りとなっています。
北洋銀行 地域産業支援部 担当：佐々木さん・新田さん
電話011-261-1321

（企画課 伊藤）

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
「木造住宅の耐震診断と補強方法」の改訂原案
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

自治体等で耐震改修に係る補助や融資の際の技術基準として扱われている「木造住宅の耐震診断と補強方法（平成16年改訂版、財団法人日本建築防災協会）

」の改訂原案についての意見公募が、平成23年7月6日から7月21日にかけて実施されました。

この度の改訂原案では、平成16年の改訂版では想定していなかった耐力要素が使用されている現状や、非住宅の耐震診断・補強法について多くの要望が寄せられたこと等を背景とし、主に次のような見直しが行われています。

1. 必要な調査内容の明記
2. その他の耐力（有開口壁の耐力）の見直し（一般診断法）
3. 様々な工法の耐力要素のデータ充実と見直し
4. 柱頭・柱脚接合部の低減係数の見直し
5. 学校や幼稚園等（非住宅）への適用範囲の拡大（精密診断法2）
6. 解説の充実と記号・用語の統一

内容の充実と改善、及び適用範囲の拡大が図らる予定で、診断方法を大幅に変える改訂ではありませんが、「1. 必要な調査内容の明記」は現行版には無い項目です。

これは、十分な調査をせずに、診断プログラムを実行するためだけに必要な情報を集めて耐震診断評点を算出するようなことが横行しないよう、また、調査の大切さを再認識して頂くことを目的として盛り込まれる予定です。

年内での改訂を目指して作業が進められていますが、改訂後も、この耐震診断法の目的は「極めて稀に発生する地震動による倒壊の可能性の有無」を判定することです。「耐震診断をクリアーしたから大地震が来ても無傷」という訳ではないことを、診断者は住宅の所有者・居住者等へしっかりと説明しなければなりません。

（構法材料G 植松）

=====
研究紹介 「市町村の建築物保全計画作成のための保全項目の優先度評価手法に関する研究」（H22～H23 経常研究）
=====

市町村が所有する公共施設は老朽化が進みつつあり、これらの施設を良好な状態に維持していくことが必要となっています。

これまでは、老朽化した施設は建替を進めてきましたが、市町村の財政状況はいずれも厳しい状況であり、現有施設の計画的・効率的な保全が重要となっています。

計画的な保全を進めるためには、既存施設の活用方針の決定や、現状の性能を把握し、保全項目の優先順位を決定する必要があります。

本研究では、既往の研究で提案した評価手法により明らかとした保全項目について、優先度を評価する手法の提案を目的とします。施設の保全項目の優先順位付けの実態を把握するとともに評価手法の視点を整理することにより、保全項目の優先度を評価する新たな手法を提案します。

昨年度は、モデル市町村で既往の調査診断手法を活用して施設の保全項目を把握し、実施決定の視点を整理しました。今年度は、優先度を評価する手法を検討し、公共財産である市町村施設の効率的な保全の検討に役立たせたいと考えております。

(構法材料G 池田)

=====
最近の研究所の動き
=====

■【来て☆見て☆はっけん！ほくそうけん 公開デー」を開催しました】

平成23年度の施設公開、「来て☆見て☆はっけん！ ほくそうけん公開デー」が7月30日（土）に行われました。

上川管内にある林産試験場、北方建築総合研究所、上川農業試験場の連携で、3週連続開催が2年目を迎え、今年はシンボルマークとポスターの公募も行われました。

前日までの暑さも一休みで、北海道らしい爽やかな天気での開催となりました。夏休み中の小学生、中学生を中心に、626人の方が来場し、各催し物コーナーとも大忙しでした。

とはいえ、一番楽しんでいたのは日頃難しい顔をしている研究員だったかもしれません。

これからも、楽しい催し物として続けていけたらと思います。

(環境G 桂)

■【オーストリア大使館の商務参事官が来所されました】

平成23年7月19日（火）、オーストリア大使館で貿易や技術交流を所管されている、マルティン・グラッツ商務参事官と高城上席商務官が来所され、北総研施設の見学と、意見交換を行いました。

アルプス山脈をはじめとする豊かな自然に囲まれたオーストリアは、環境に対

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。

登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。

メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

http://www.nrb.hro.or.jp/provide/sendmail_newsletter.html

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

<http://www.nrb.hro.or.jp/sendmail.html>

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。